PRESS RELEASE

横尾龍彦――瞑想の彼方

Yokoo Tatsuhiko: Beyond the Realm of Meditation

2023. 7.15 sat — 9.24 sun | The Museum of Modern Art, Saitama

▌開催概要

横尾龍彦（1928-2015）は、日本とドイツを往来しながら活動し、独自の画境を深めた画家です。1950 年に東京美術学校日本画科を卒業した横尾は、北九州市で美術教師を務めながら制作活動を開始しました。1965 年に初めて渡欧すると、スイスで初の個展を開催します。帰国後はキリスト教や神話を題材にした幻想画によって、澁澤龍彦や種村季弘ら当時の知識人に高く評価されました。1980 年以降には、禅やルドルフ・シュタイナーの霊学に影響を受けて東西思想の融合を志向し、力強い筆勢と飛沫が特徴的な抽象画を描くようになります。やがて、制作前に瞑想し無心の状態になることで、無作為に描くスタイルを確立。自意識を超えた世界の美を追求し続けました。

本展は、日本の美術館で初めての回顧展です。埼玉県秩父市のアトリエに遺された作品約 90 点を中心に、初期から晩年までの作品・資料をご紹介し、横尾の生涯を辿ります。

▌展覧会の見どころ

1. 初の回顧展

日本の美術館初の回顧展として北九州市立美術館、神奈川県立近代美術館と共同で開催します。画業初期の 1960 年から最晩年の 2014 年まで、年代毎に作品を展示し、これまで広く知られてこなかった作家の全貌を紹介します。

2. 資料を多数出品

横尾は 1970 年代に井上光晴による新聞小説の挿絵や須永朝彦の書籍の装幀などを数多く手がけています。それらの資料のほか、各年代の写真資料やスケッチを多数ご紹介します。また、普段は一般に公開されていない聖母子像を 1 点出品します。

3. パフォーマンス風景を映像で紹介

2000 年代に日本とドイツで行なわれたパフォーマンスの様子を一部ご紹介します。カンヴァスを床に置き、音楽が流れるなか、舞うように体を動かして制作する姿をご覧ください。また、パフォーマンスによって制作された作品もあわせて展示します。

▌展示構成

第 1 章 北九州からヨーロッパ、東京へ

1950 年、東京美術学校を卒業した横尾は、北九州市の学校で美術教師を務めるかたわら日本板画院展、二科展、新制作協会展などへ出品を重ねます。本章では、1960 年代の版画や油彩画を紹介します。

第 2 章 悪魔とエロスの幻想

横尾は 1973 年、初の画集『幻の宮』を刊行します。異国風の人物や神話的な動物の姿を緻密に描いた作品で国内各地にファンを獲得します。ここでは、『幻の宮』掲載作品などを展示します。

第 3 章 内なる青を見つめて

新たな作風を開拓しようと模索する横尾は、1970 年代後半に抽象性の強い、青を基調とした作品を制作するようになります。下地の絵具を手で直接かき回して画面を作り、聖書の「黙示録」や広大な風景をテーマに制作しました。みずから「青の時代」と呼んだ 1970 年代から 1980 年代後半の作品をご紹介します。

第 4 章 東と西のはざまで

1980 年、ドイツ人のコレクターのすすめで横尾はドイツに移住します。この地で横尾は、西洋とは全く異なる日本人としての精神を自覚し、徐々に日本回帰を志向し始めます。そして書を思わせる筆勢、禅画に由来する画題の作品を手掛けるようになります。本章では、1980 年代末から 1990 年代末までの作品をご覧いただきます。

第 5 章 水が描く、風が描く、土が描く

横尾は 1990 年代末より自身の制作について「自分が描くのではない。風が描く、水が描く、土が描く」と言い表しています。そして、制作の様子をパフォーマンスとして公開しました。本展のしめくくりに、2000 年代から、2014 年の事実上の絶筆作品までをご紹介します。

▌開催情報

展覧会名	横尾龍彦　瞑想の彼方
会　　期	2023 年 7 月 15 日（土）－ 9 月 24 日（日）
休 館 日	月曜日（7 月 17 日、8 月 14 日、9 月 18 日は開館）
開館時間	午前 10 時－午後 5 時 30 分（展示室への入場は午後 5 時まで）
観 覧 料	一般 1,000 円（800 円）　大高生 800 円（640 円） （ ）内は 20 名以上の団体料金 中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い 1 名を含む）は無料です。 企画展観覧券（ぐるっとパスを除く）をお持ちの方は、併せてＭＯＭＡＳコレクション（1 階展示室）もご覧いただけます。
主　　催	埼玉県立近代美術館
協　　賛	株式会社イトーキ
特別協力	公益財団法人日動美術財団
広報協力	ＪＲ東日本大宮支社、ＦＭ ＮＡＣＫ５

▌会場・交通案内

埼玉県立近代美術館
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤 9-30-1　TEL: 048-824-0111　FAX: 048-824-0119
https://pref.spec.ed.jp/momas/

・JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。
　JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分。
・当館に駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。
・団体バスは事前にご相談ください。
・お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。

▌関連イベント

特別対談

鎌田東二氏（京都大学名誉教授）×水沢勉氏（神奈川県立近代美術館館長）
9 月 10 日（日）午後 3 時〜4 時 30 分（開場は午後 2 時 30 分）
当館 2 階講堂
定員 60 名（先着順、申込不要）
参加費無料
横尾龍彦と深い親交を結び、制作の様子を間近に見てこられた鎌田氏と、本展の企画に携わった水沢氏のおふたりに、横尾の作品や思想について語っていただきます。

担当学芸員によるギャラリートーク

各日とも 2 階展示室／午後 3 時より 30 分程度／企画展観覧料が必要です。
7 月 15 日（土）、8 月 6 日（日）

▌スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内します（予約制）。
お問合わせ・ご予約は教育・広報担当（電話 048-824-0110）まで。

▌同時開催

MOMAS コレクション（1 階展示室）
2023 年 5 月 13 日（土）－8 月 27 日（日）
「セレクション：企業の支援によるコレクション」「MOMAS ノ海」
9 月 2 日（土）－11 月 26 日（日）
「セレクション」「特集：須田剋太」

「埼玉りそな銀行フリーデー：7 月 15 日（土）〜8 月 27 日（日）」は、MOMAS コレクションの観覧料が無料になります。（協賛：埼玉りそな銀行、協力：埼玉県立近代美術館フレンド）

▌その他

状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

▌お問い合わせ

展覧会担当：菊地、吉岡／広報・画像に関してのお問い合わせ：吉岡
TEL: 048-824-0111（代表）／048-824-0110（学芸直通）　FAX: 048-824-0118

▌プレスカンファレンス（プレス向けギャラリートーク）

2023 年 7 月 14 日（金）午後 4 時－（受付開始：午後 3 時 45 分）
埼玉県立近代美術館 2 階展示室
上記の日程で、プレスカンファレンスを開催いたします。
参加ご希望の方は、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当）までメールでお申し込みください。
貴社名、お名前、取材スタッフの人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

▌広報用画像

・画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当）まで、メールでお願いいたします。
・画像を掲載する場合、キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようにお願いいたします。
・画像を掲載する場合、掲載誌を 1 部、広報担当までお送りください。

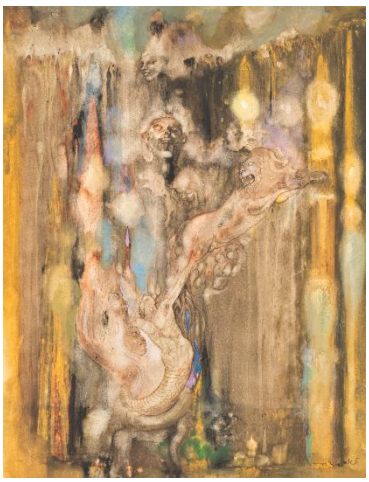
▌キャプション

① 《不死鳥》1967 年、油彩・カンヴァス、個人蔵
② 《七つの燈台》1970 年頃、ガッシュ・紙、福岡県立美術館蔵
③ 《岸辺の沈黙》1985 年頃、ガッシュ・紙、個人蔵（神奈川県立近代美術館寄託）
④ 《黙示録　ゴグとマゴグ》1977 年、油彩・カンヴァス、北九州市立美術館蔵
⑤ 《朝焼け》1983 年、油彩・カンヴァス、個人蔵
⑥ 《円相》1992 年、ミクストメディア・カンヴァス、個人蔵
⑦ 《舞踏する混沌》1996 年、ミクストメディア・カンヴァス、個人蔵
⑧ 《アポカリプス》2001 年、ミクストメディア・カンヴァス、神奈川県立近代美術館蔵
⑨ 《青い風》2003 年、ミクストメディア・カンヴァス、個人蔵

※ その他の作品画像をご希望の場合はお問い合わせください。

広報用画像一覧

①



②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨